



抜歯しない埋伏歯の矯正治療

—含歯性嚢胞を糸口として—

近年、下顎第二大臼歯と第三大臼歯の**重層埋伏症例**が散見される。かつて重層埋伏に対して、下顎第二・第三大臼歯を抜去する治療法が報告された。矯正治療では、下顎第二大臼歯あるいは第三大臼歯を抜去し、第三大臼歯あるいは第二大臼歯を保存することが報告された。

一方、この重層埋伏において治療法も重要だが、下顎第二大臼歯が水平埋伏する原因も重要である。下顎第二大臼歯は第三大臼歯と異なり、**萌出空隙不足**が原因とは考え難い。この原因が解明できれば予防も可能であろう。

このキーワードは**萌出嚢胞**であると考察される。萌出嚢胞は歯槽粘膜に発生する比較的稀な嚢胞で、萌出間近に発生するため**歯肉肥厚**や萌出遅延による埋伏と誤診されることも多い。しかし、適格な診断が行われれば、萌出嚢胞は稀とはいえず、しかも下顎大臼歯を**近心傾斜させる一つの原因**である。

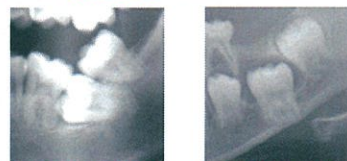
萌出嚢胞と**含歯性嚢胞**は濾胞性歯嚢胞とも呼ばれ、発生時期が異なるが、組織学的には同等である。いずれも貯留液内圧が高く、この内圧により埋伏歯は近心傾斜することがある。

今回、**含歯性嚢胞**の治療を通して、その発生機序と治療法を考察する。また、萌出方向異常に伴う埋伏歯の矯正治療を、症例供覧しながら解説する。埋伏歯の矯正治療が普及・発展すれば望外の幸です。

供覧症例（抜粋）



下顎第二大臼歯の**萌出嚢胞**（左から11歳、12歳、13歳時）



重層埋伏症例

含歯性嚢胞



5の**萌出方向異常**（左から10歳、14歳、16歳時）



講師
野田 隆夫 先生
のだ たかお
東京医科歯科大学卒業
歯学博士
野田矯正歯科クリニック院長



参考図書

抜歯しない
埋伏歯の矯正歯科治療
著者：野田隆夫・野田雅代
(クインテッセンス出版)

講演内容

- 萌出嚢胞・含歯性嚢胞・濾胞性歯嚢胞とは何か
- 下顎第三大臼歯のアップライトと下顎管
- 根尖屈曲埋伏歯は矯正治療可能か
- 上顎逆性埋伏歯の原因と矯正治療法

- 導帯管と歯牙腫・含歯性嚢胞
- 上顎犬歯による前歯歯根吸収の対応法
- 下顎小臼歯の萌出方向異常の原因
- 歯根弯曲発生メカニズム

日程

2020年12月3日(木)
10:00~16:00

定員

40名

会場

ワイム貸会議室お茶の水 Room B
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目1-20
お茶の水ユニオンビル

受講料

16,500円(税込)

※ お申込み確認後、お振込み案内を送付させていただきます。

お申込み・お問い合わせ

(株)松風矯正課 NLT矯正セミナー係

〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-2

TEL:03-3832-1824 / FAX:03-3832-7682

お申込み

FAX. 03-3832-7682

WEB.

弊社ホームページからお申込みいただけます。
<http://www.shofu.co.jp/ortho/contents/hp0069/index.php?No=41&CNo=69>



●「抜歯しない埋伏歯の矯正治療 —含歯性嚢胞を糸口として—」●

フリガナ
お名前 [] 貴医院名または勤務先 []

ご住所 〒 [] 年齢 [] 歳

e-mail [] TEL [] FAX []

※ご提供いただきましたお名前、ご住所、お勤め先、お電話番号等の個人情報は、今回の講演会及び今後開催される講演だけに利用し、管理いたします。